

2022年国際コーヒー協定

背景

- 国際コーヒー協定は、世界のコーヒーの価格の安定及びコーヒーの供給と需要との間の均衡を図ることを目的として1962年に作成され、その後、後継の協定に順次引き継がれてきた。
- 現行の2007年国際コーヒー協定（我が国は2015年に締結）は、**有効期間が2024年2月に終了予定**。その後継となる協定として、2022年6月、**2022年国際コーヒー協定が採択された**（我が国は2023年2月8日に署名。2023年3月現在で未発効。）。
- 我が国は、世界第4位のコーヒー輸入国（2019年生豆換算輸入量ベース）であり、これまでの累次の国際コーヒー協定を締結してきている。

主な内容

- 国際コーヒー機関の組織、分担金、コーヒーに関する情報の交換、持続可能なコーヒー産業の実現のための国際協力及び官民連携等について定める。

早期締結の必要性

- **新興国におけるコーヒー需要の高まり等により国際コーヒー市場の需給がひっ迫する中**、本協定の下、生産国・消費国の政府や民間部門等との連携をより緊密にすることで、**我が国へのコーヒーの安定的輸入の確保を図る**。
- 本協定の下での協力は、コーヒー生産国の大半を占める**開発途上国の発展の支援**や国際コーヒー機関の**加盟国との関係の強化**に加え、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも資する。
- コーヒーの安全性や品質管理等について国際コーヒー機関を通じて我が国の考えを引き続き反映していくためには、本協定が発効するに当たって我が国も原加盟国として議論を主導することが必要。

近年のコーヒー価格の変遷



国際コーヒー機関

- 加盟国（2023年3月現在）：48か国及びEU
- 輸入国：6か国（日本、スイス、英国等）及びEU
- 輸出国：42か国（ブラジル、コロンビア、ベトナム、インドネシア等）

	主要加盟国	2019/20年輸出量 （生豆換算ベース）
輸出国	ブラジル	243万トン
	ベトナム	159万トン
	コロンビア	76万トン
	主要加盟国	2019年輸入量 （生豆換算ベース）
輸入国	ドイツ※	135万トン
	イタリア※	65万トン
	日本	48万トン

※EUとして加盟

（出典：国際コーヒー機関）